

社会厚生常任委員会行政視察報告書

平成19年11月22日

1 日程	平成19年10月16日～18日
2 視察先等	大分県大分市 人口46.7万人 福岡県田川市 人口5.3万人
3 視察事項	大分市内 ・特別養護老人ホーム「明治清流苑」 田川市 ・健康増進のまちづくりについて
4 視察者	一行8名 委員 中野元栄委員長 広野豊作副委員長 安中弘委員 安武秀敏委員 佐野正三良委員 樋口浩二議員 当局 武内豊福祉事務所次長 随 行 美原弘美議会事務局主査

特別養護老人ホーム「明治清流苑」について

清流苑グループは、総合ケアセンター清流苑、ヘルスケアセンターのぞみ、総合ケアセンター舞鶴清流苑、総合ケアセンター明治清流苑の4拠点を中心に福祉サービスを提供している。

明治清流苑の明治は地名で建築費は、66,298万円全額自己資金で建築され、19年7月1日にオープンした。

入居者の平均介護度は、4.5で認知症がある方も多い。

明治清流苑の概要

用途地域	第1種中高層住居専用地域 住宅造成規制区域
敷地面積	6,931㎡
建築面積	2,039㎡
構造・規模	地階RC造667.87㎡ 1階 枠組壁工法(耐火構造)2,003.04㎡ 2階 枠組壁工法(耐火構造)1,798.32㎡ 延床面積4,469.23㎡(1,351坪)
使用木材	合計866㎡
所要室	地階 地域交流スペース、歩行浴槽(温泉利用) 倉庫 (災害用非常食等備蓄庫を兼ねる) 1階 ショートステイ用居室(13室) デイサービス用施設(最大30名収容) 特養居室(7室)管理棟 2階 特養居室(4ユニット・各10室)
基本居室の面積	16.32㎡(1.54㎡のトイレを含む)

明治清流苑建築の経緯

明治清流苑の建築がスタートしたのが約2年前、本部である清流苑が建築後30年を迎えるに当り、これからの特養施設の有り様を模索していた理事長は、新に分院を建てる事を決意、本部の入居者の一部を新しい施設に移す事で、すべてを個室化する計画を立て「人は高齢になっても人間としての尊厳がある。それを尊重するためには、最低限でも個室を用意する必要がある」という考えと国の方針が合致したので建築に踏み切った。選んだ敷地は、古くからの住宅地に隣接する緑豊かな丘陵地。自然環境が良いだけでなく、市街地からも遠くないので家族が面会に来やすい。また目の前に住宅群が広がり、隔離感がない。そのうえ周辺に地域の福祉施設がないので、地域の福祉拠点として役に立てるという条件が整っていた。設計に約12ヶ月、施行に約8ヶ月かけて完成。

「みんな初めて経験する事が多く、大変だったと思いましたが、工事が始まってからは実にスムーズでした。ツーバイフォー工法の建て方を見て、その合理性を実感しました。また木がふんだんに使われているせいか建物の断熱性がよく居住性もよい、非常に優れた、魅力的な工法だと思います。」と児玉理事長は説明をしてくれました。又、設計にあたり、自ら車イスに乗って視線の高さや動きをシュミレーション、介護も実際に体験をして、それらをプランに反映させたという、中央ホールを中心に各ユニット（居住スペース）を十字型に配すると言う発想もその体験から生み出され、各ユニットの独立性の確保と介護をする人の効率的な動線を実現している。

歩行浴槽や地域交流スペースがある地下部分は、鉄筋コンクリート造りだが、1、2階の約3,800㎡を木造で建築、カナダ産材木を使用し、アルミ箔等で耐火被覆を施し、居室の腰板や玄関脇の柱などには県産材を用い、床板は傷が付きにくいさくら材を使用、室内外の壁は地元産の土を使うなど、入居者や介護スタッフの体に優しい素材が随所に使われていた。建物の中央部にセンターホールとスタッフルームを設置し、そこから十字に伸びる形で各ユニットを配置した。入居者が夜間に室外に出た場合、スタッフの目が届くよう、灯りがともる建物中央に自然と誘導するために工夫された設計となっている。各ユニットの入り口は、それぞれ模様の違う引き戸を設け各居室の入り口にはランプを設置、障子を入れるなど和風の雰囲気演出されていた。自然の光や風を存分にとりいれた設計、日本古来の縁側文化を取り入れた造りはすばらしかった。

入居者の自己負担は8～13万円ですが、家族は個室で入居者と一晩過ごしたり、周囲に気兼ねなく話すことが出来、面会者は増加しているそうです。

地域貢献活動として大分市の委託を受けて大分市在宅高齢者・身障者緊急通報センターを運営し、現在一人暮らしの方2,000人程度を対象に行っています。

今後の民間経営は、難しいのでこれ以上の拡張はしない。また、一番の課題は、人材確保であると理事長は話されていました。

福岡県田川市 市の概要

田川市は、福岡市の北東部に位置し、市の南には英彦山、北に福智連山、東には香春岳を望む三方山で囲まれた田川盆地の中心都市であり、また、筑豊地域の中核都市です。

田川市は、明治33年に大手企業の三井鉱山が進出してから、石炭と共に栄え、最盛期には（昭和33年）10万人を越える産業都市でした。しかし、国のエネルギー政策の転換により、昭和39年に、三井鉱山が閉山となってからは、石炭産業の興亡と運命を共にする事になり、現在は過疎の町になっています。

近年では、地場産業の育成、企業進出の支援等にも力を入れ、産・学・官のネットワーク構築と産業構造改革に取り組んでいます。

田川市の人口の推移と介護保険制度の現状

田川市の総人口は平成12年の54,706人から平成18年には52,607人と、穏やかに減少しながら推移している。

年齢区分別の人口構造をみると0～64歳までは減少しているが、65歳以上の高齢者人口は増加しており、総人口に占める高齢者人口の割合は平成18年で25.6%と高い高齢化率を示している。

広域連合（33市町村）で、介護保険制度が運営されてきたが、市町村間で利用状況に著しく隔たりが生じ、格差は年々増加した。

田川市はAグループで月額保険料（基準額）6,456円、高齢者給付費（1人当たり）368,503円、Bグループで月額保険料（基準額）4,966円、高齢者給付費（1人当たり）271,653円、Cグループで月額保険料（基準額）3,873円、高齢者給付費（1人当たり）213,545円です。

65歳以上の人口に対しての介護保険認定者数の割合は、全国15.7%福岡県18.6%ですが、田川市は31.5%と高く平成18年より介護予防事業に取り組んでいます。

田川市地域支援事業（介護予防事業）について

1 事業の目的など

高齢者等が要介護・要支援状態となることを予防し、可能な限り地域において自立した日常生活を送ることが出来るようにするため、介護保険法に基づく地域支援事業の一環として介護予防事業を実施している。

2 特定高齢者と一般高齢者

田川市が実施する総合健診等の受診者（65歳以上）に対し介護保険法に基づく生活機能評価（25項目によるチェックリスト）により、軽度

の生活機能の低下がみられ要支援・要介護状態になる恐れのある高齢者を『特定高齢者』といい、生活機能の低下がみられない活動的な状態にある高齢者を『一般高齢者』という。

3 特定高齢者施策の事業概要

保健センターでは、特定高齢者の決定を受けたものに対し、本人の基本チェックリストに基づくチェック項目の状況により作成されたケアプランに基づき、電話等により介護予防の必要性や保健センターで実施する介護予防事業への参加について周知を図っている。

(1) 通所型

- ① 運動機能向上事業（事業名；高齢者の筋力アップ教室）
- ② 栄養改善事業（事業名；食生活カウンセリング）
- ③ 口腔機能向上事業（事業名；健口教室）

(2) 訪問型

介護予防事業のうち、保健センターに通所できない人を対象に保健師等がケアプランに基づき定期的に居宅を訪問する。

4 一般高齢者施策の事業概要

(1) モデル校区事業

中学校区（8校区）の校区ごとに、介護予防教室を行う。

(2) 高齢者のための元気アップ教室

ゴムチューブや踏み台を使いながら筋力や柔軟性を高めることで生活機能の向上を目指す。

(3) 健康教育事業

市内の公民館からの要望に応じて出前講座を開催する。

(4) 70歳のための健康講座

保健士が、高齢者医療受給者証の交付時に生活習慣予防、メタボリックシンドロームに関する講話を実施。

(5) 高齢者のための栄養講座

栄養士によるバランスのとれた食生活に関する講話と調理実習を行い、バランスとれた良い食事を推奨し、低栄養予防につとめる。

所感

大分市は、雪が降らないという立地条件ですが、十字型の建物の配置で自然の光を充分取り入れた縁側と木の特徴を生かした施設で、温水プールのある地下の部分より1、2階は、人に優しさと温かさを感じた日本古来の木造建築の良さを感じさせられた明治清流苑でした。

田川市は、保健センターと区長、公民館等が一緒になって、出前の健康づくり（全自動血圧計を持参）に努力し、平成17年3月1日現在、介護保険認定者の割合31.6%が平成18年11月末では30.8%に減少した参考になる事例でした。